

NETWORK ねっとわーく 短 信



京都精神科医会学術講演会

テーマ うつと不安の最近の話題
— 認知行動療法と薬物療法 —
日時 令和2年1月18日(土)
場所 ANAクラウンプラザホテル京都
(座長) 第二北山病院
院長 土田 英人
主催 京都府医師会



岩倉北小学校4年 認知症サポーター養成講座

テーマ 岩倉の歴史・高齢社会について、DVD視聴と振り返り、記憶の壺、寸劇、グループワーク
日時 令和2年1月21日(火)
場所 岩倉北小学校 4年生教室
三幸会看護介護研究室 部長 小亀 勇
紫雲苑 事務長 武藤 章
ケアサポートセンター宝ヶ池 主任 寺田 和代
ケアプラン事業所北山 主任 表 直美
主催 高齢サポート・岩倉



オレンジカフェ上京ミニレクチャー

テーマ 認知症の医学的理解
日時 令和2年1月26日(日)
場所 オレンジカフェ上京 (花友じゅらくだい)
北山病院 院長 澤田 親男
主催 オレンジカフェ 上京実行委員会



第2回近畿認知療法・認知行動療法学会

テーマ 発達障害に対する認知行動療法
日時 令和2年2月8日(土)
場所 大阪大学吹田キャンパス銀杏会館
第二北山病院
院長 土田 英人
主催 近畿認知行動療法学会



病院医療従事者認知症対応力向上研修

テーマ 認知症
日時 令和2年2月12日(水)
場所 メルパルク京都
北山病院 院長 澤田 親男
主催 一般社団法人京都私立病院協会



明德小学校4年認知症サポーター養成講座

テーマ 岩倉の歴史・高齢社会について、DVD視聴と振り返り、記憶の壺、寸劇、グループワーク
日時 令和2年2月21日(金)
場所 明德小学校 4年生教室
北山病院 看護介護部長 坂井 加津美
三幸会看護介護研究室 部長 小亀 勇
紫雲苑 事務長 武藤 章
ケアプラン事業所北山 主任 表 直美
高齢サポート・岩倉 部長 松本 恵生
主催 高齢サポート・岩倉



令和2年2月4日(火) 三幸会会議室

令和元年度 看護介護部研究発表会 タイムスケジュール

開会挨拶	研究発表についての説明	13:30~	総合司会 第二北山病院 1病棟 清水 勇吾
【第I群】	1席	13:40~	座長 北山病院 10病棟 塩見 彰子 第二北山病院 1病棟 岩ヶ谷 卓人
	2席		急性期病棟における対人調整サポートの一事例 ~信頼関係構築を目指し、安心できる環境の提供を行なって~ 第二北山病院 2病棟 中官 宏紀
	3席		レビー小体型認知症への看護の試み ~徘徊に焦点をあてた関わり~ 北山病院 3病棟 松永 晋一
	4席		精神科病院での看取り ~医療者の想いと関わり、事例を通して意識できたことを考える~ 北山病院 6病棟 藤田 欣乃
質疑応答		14:20~	
【第II群】	1席	14:40~	座長 第二北山病院 3病棟 片山 真梨子 北山病院 10病棟 鈴木 浩正
	2席		行動制限のあるアルツハイマー型認知症患者への関わり ~その人らしい入院生活を行うため行動制限の緩和と今後の課題について~ 北山病院 いずみ病棟 山口 寛
	3席		認知症患者への機能維持訓練の有効性 ~一つの時間を共同作業することで得られる副産物~ 第二北山病院 5病棟 横山 正・倉本 紀子
	4席		身体表現性障害のある患者の看護 ~限定的な環境(個別のアプローチ)で退院支援を実践して~ 第二北山病院 7病棟 木村 勇貴
質疑応答		15:20~	
総評		15:30~	第二北山病院看護副部長 内田 英公 北山病院看護介護部長 坂井加津美 三幸会統括長 藤田 都司

看護介護部研究発表会

令和元年度

今回、初めて看護介護部研究発表会に発表者として参加させて頂きました。看護師の資格を取得後4年目で少しずつ病棟業務に慣れてきた時に病棟を代表して看護研究の発表者選ばれたことを光栄に思い、看護研究に取り組ませて頂きました。

今回の研究対象とさせて頂いた患者様は、統合失調症の疑いで初めて入院された方でした。易怒性が強く感情のコントロールが困難な患者様で、特に主治医に対しての易怒性が強く初めは診察もできない状況でした。そういった状況に少しでも患者様が安心できる環境となるよう看護師が診察に付き添い、日々の関わりの中で本人が安心できるような言葉かけを行うことを続けました。その中で少しずつ患者様が主治医との診察を落ち着いて受けられるようになり、退院する結果にも繋がりました。

今回の看護研究では、初の入院治療に

対して被害的・非受容的であった患者様に対し安心できる環境を提供したことで、看護師が援助者であると認識でき、本人の不安感や焦燥感の軽減に繋がりました。急性期病棟では今後も今回のようなケースの患者様の症例が見込まれるため、今回の看護研究に対する取り組みは自分の大きな学びとなり有意義なものとなりました。

最後に、看護研究の機会を設けて頂き、ご指導・ご助言・ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

中官 宏紀

